

ケニア北部のナムルングレ層およびナカリ層産後期中新世エラスモテリウム族 (サイ科, 奇蹄目, 哺乳綱) 化石

The Late Miocene Elasmotheriini (Rhinocerotidae, Mammalia) from the Namurungule and Nakali Formations of northern Kenya

半田 直人^{1*}, 仲谷 英夫¹, 中務 真人², 國松 豊²

HANDA, Naoto^{1*}, NAKAYA, Hideo¹, NAKATSUKASA, Masato², KUNIMATSU, Yutaka²

¹ 鹿児島大学大学院理工学研究科, ² 京都大学大学院理学研究科

¹Graduate School of Sci. and Engr., Kagoshima Univ., ²Graduate School of Sci., Kyoto Univ.

ケニア北部のナムルングレ層とナカリ層は、これまで日本 - ケニア合同調査隊によって調査が行われており (Ishida, 1987; Kunimatsu et al., 2007), 多数の哺乳類化石が発見されている。本研究では両層から産出したサイ科化石について報告する。

ナムルングレ層産の標本は、上顎 M2 および M3 を伴う上顎骨、下顎 P4 ~ M2 を伴う下顎骨、さらに遊離した上顎 P4 と上顎 M3 からなる。これらの標本は Nakaya et al. (1987) によってイラノテリウム族の新種として報告されていた。一方、ナカリ層から産出した標本はこれまで未報告であり、遊離した上顎 M1 または M2 および上顎 M3 からなる。

これらの標本は、頬歯が歯冠セメントで覆われ、上顎大臼歯のプロトコーンが著しくくびれる。さらに上顎 P4 のポストフォセットが幅広いといった形質を持つ。このような形質は、サイ亜科のエラスモテリウム族 (イラノテリウム族と同じ分類群とされる; Antoine, 2002) の特徴である。

ナムルングレ層およびナカリ層産標本を、エラスモテリウム族の 10 属と予察的に比較した結果、本標本は、頬舌方向に向かって伸長するプロトロフおよびメタロフがみられる点、エナメル褶曲が発達しない点、クロセットの発達が弱い点などから、中国の中期中新世から知られる *Huaqingtherium* 属と形態的に類似することが確認された。しかしながら、本標本は後期中新世の地層から産出しており、サイズが *Huaqingtherium* 属より小型で、上顎大臼歯の谷にエナメル輪が発達する点から、おそらく *Huaqingtherium* 属とは別種であると考えられる。今後、より詳細な分類群の同定を目指すとともに、系統解析を行いエラスモテリウム族における系統関係を検討していきたい。

キーワード: ケニア, サイ科, 後期中新世, 哺乳類, 臼歯

Keywords: Kenya, Rhinocerotidae, Late Miocene, mammal, teeth